SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

伝統工芸にイノベーションを「クラフテリアート」で世界に発信

日本の伝統工芸産業に新たな光を当てようと、関彰商事が「CrafTeriArt」（クラフテリアート）という考え方を打ち出した。
伝統工芸の作り手にアーティストが関わることで新しい魅力を世界に広めるという画期的な取り組みだ。
プロジェクトを推進する、美時間の代表でキュレーターの津延美衣さん、アーティストのミック・イタヤさん、関彰商事シニアアドバイザーの中島重夫さんの3人が
伝統工芸の将来像について語り合った。

地域に根差した工芸やアートを尊重する魅力的な手段

ミック・イタヤ

ビジュアルアーティスト

エスキャットの夢

エスキャット Facebook

「クラフテリアート」という考え方は、どんな背景から生まれたのですか。

中島　現在、日本の伝統工芸産業は非常に危機的な状況にあります。1974年には伝統工芸関連産業で働く人は全国に28万人いましたが、約半世紀後の2018年には5万人まで減ってしまい、生産額も6分の1まで減少しています。この状況を受け経済産業省が復興支援に取り組んでおり、関彰商事も伝統工芸の復活に一役買いたいと考えました。そこで、伝統工芸（クラフト）とアーティストの融合によるインテリア商材の開発・コーディネートに着目し、新規ビジネスとして創出することを考えて、この一連の取り組みを「クラフテリアート」と名付けました。茨城県や全国の素晴らしい伝統工芸をピックアップし、ミック・イタヤさんのようなアーティストの力を借りて変化を加える。伝統工芸のイノベーションを関彰商事から発信し、世界に広げていきたいと考えています。

津延　『クラフテリアート』は、クラフト・インテリア・アートを組み合わせて作りました。ニューヨークの大学を卒業後、東京と諸外国を往復するなかで、寒暖差による欧米と日本のインテリアの捉え方の違いをみてきました。寒さが厳しい欧州では、部屋は壁に囲まれ殺風景のために足し算の発想からアートやインテリアが発達しそれが米国に伝わる一方で、わりと暖かく湿気の多い日本では、狭い家屋になるべく物を置かない引き算（ミニマル）の発想から、手作りした日常品（伝統工芸品など）を使い終えたら室内に飾り、襖を開けて風通しをはかりながら四季折々の庭をアート作品のように楽しんできました。そして近年、日本の家屋が和洋折衷になっても変わることないその洗練された考え方に、欧米人から熱い視線を浴びていることが背景にあります。

伝統工芸には作家として成立しているケースの他に、茨城県の誇る「桂雛（城里町）」に見られるように、西ノ内和紙（常陸大宮市）、結城紬、西陣織（京都府）など、さまざまな地域が加わって初めて作品が完成する、つまり、職人として主に素材を提供しながら維持しているケースがあります。そこで全般的な活性化を目指して、既存の伝統工芸品作品・アート作品プラス伝統工芸品同士、あるいは異業種と、ミックさんのようなアーティストとのコラボによるブランディングした作品を打ち出して新たな需要と供給を生み、国内外に発信していくのがクラフテリアートの狙いです。

中島　長引くコロナ禍により、生活に彩りや癒しを求める人が増えています。そうした需要が高まっている中で、数多くある茨城の伝統工芸の中から、笠間焼や桂雛、西ノ内和紙、きぬの染（常総市）、水府提灯（水戸市）を中心に、本県からクラフテリアートの輪を広げていきたいと考えます。

伝統工芸の結び付けから新たな需要と供給を生み出す

津延（つのべ） 美衣

美時間 代表
エッセイスト、プランナー、デザイナー、キュレーター
全米宝石学会GIA・G.G
NY州立大学FIT卒業

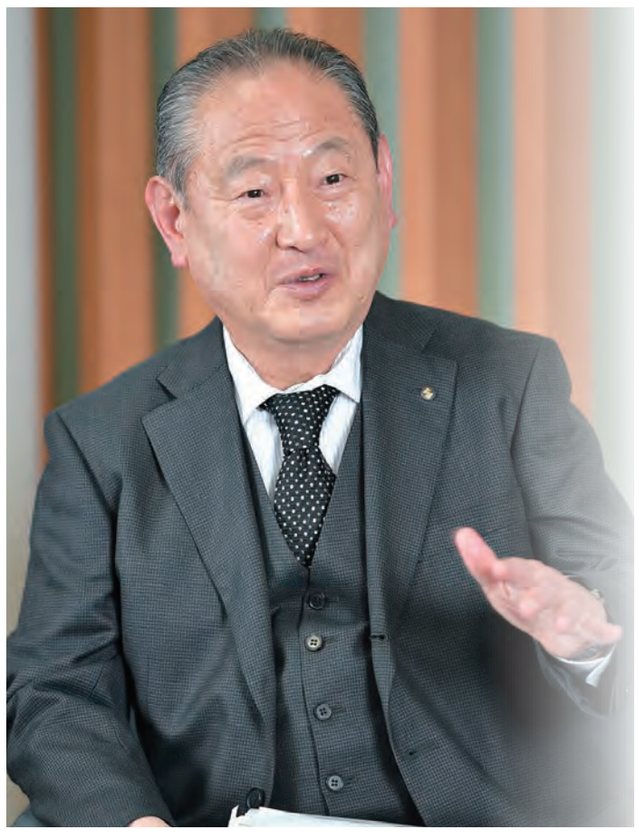
クラフテリアートにおけるアーティストの役割をどのように考えていますか。

イタヤ　私はアメリカやヨーロッパの文化に興味があり、欧米のファッションや音楽・デザインの仕事に関わってきましたが、ある時、古い日本家屋に住むことがあり、その経験が改めて日本文化に目を向けるキッカケになりました。そんな時に、幼なじみで水府提灯を作る鈴木茂兵衛商店7代目の鈴木隆太郎社長と再会し、提灯のデザインを手伝うようになりました。関わっていく中で、提灯が和紙をはじめ様々な伝統工芸品で成り立っていることや、携わる方々との交流を通じて私自身が昔から伝統文化・工芸のそばで生きていたことに気が付きました。

私や伝統工芸士の方々はモノをつくることは得意ですが、それを販売に結び付けて世に広めることについては専門ではありません。今回、関彰商事の協力で、それらがクラフテリアートという形で新しく世に出ていく準備が進んでいます。工芸やアートはそれぞれの土地に根差したものです。土地の恵みや人々の思想、歴史、文化の全てがそこに凝縮されているのです。それを尊重することは、そこに住む人々を尊重することであり、結果作り手への尊重につながっていくと考えています。しかし社会の変化によって、そうした尊重の考えが非常に危うくなっています。社会の変化と人の思い、その相反する部分を両立する手段になりうることがクラフテリアートの最大の魅力だと思うのです。

中島　笠間焼の作り手と交流した際、どれだけ良いものを作っても売れないという話を聞き、マーケット創造の必要性を痛感しました。価値あるものを販売する場、誰かに届ける場を作ることで皆がウィン・ウィンの世界を作りたい。既存のものに手を加えるだけで可能性は大きく広がるものです。

危機的な伝統工芸のイノベーションを関彰商事から



中島 重夫

関彰商事株式会社 シニアアドバイザー
東京商工会議所 渋谷支部 役員
元 セコム株式会社 顧問

ミック・イタヤさんは、昨年喜れに関彰商事つくばオフィスで水府提灯を使ったインスタレーションを展開し、注目を集めました。展示の意図をお話しください。

イタヤ　関彰商事という企業としての空間ではなく、人々が眺めて心温まる空間にしようと構想を練りました。それを象徴するキャラクターとして生まれたのがエスキャットです。エスキャットのSは、関彰商事のSで、つくば市から連想した宇宙・スペースのSです。つくば市で生まれたエスキャットが冬に帰ってきたというコンセプトを基軸に、無垢な白を基調としてインスタレーションを構築しました。

灯りについては、柔らかく、人の気持ちを穏やかにするような、それもできる限り地元に根差した温かい美しさのあるものが良いと考え、水府提灯を使いたいと思いました。114年続いている関彰商事の歴史を考えた時、伝統と今、そして未来を表現するのにふさわしい灯りです。この世情を少しでも癒やせる、和らげるものを一つでも多く創造することが誰かの助けになり、穏やかな日常を取り戻す一助になるとの思いで組み上げました。

現在進めている取り組みについてお話しください。

津延　1905年に創設されて以来、日米交流と在ニューヨーク日本企業人と家族の親睦を図ってきた『日本クラブ』のWEBギャラリーにおいて、水府提灯をテーマにした企画展「日本から世界へおくる灯り―地域で育まれてきた水府提灯の伝統と革新―」を4月23日から6週間、開催して頂くことになりました。

ここ数年コロナウイルスによるパンデミックにより暗いニュースが世界的に続くなか、東京オリンピックの聖火から思いついた企画です。人類にとって不可欠な灯火は昨今では電気にとって代わりましたが、提灯作りを150年間まるで聖火ランナーのようにつないで現在に至る水府提灯の老舗「鈴木茂兵衛商店」があります。その第7代目の鈴木社長はミックさんとのコラボにより、提灯業界に一大旋風を巻き起こしました。それは、LEDを使用してリラクゼーション効果が高いとされるF分の1の揺らぎを再現するなど、現代のニーズを最新技術と伝統が融合した造形美を表現した『すずも提灯』で、まさにクラフテリアートが目指すところです。

開催の初日、バーチャル・オープニング・レセプションを行います。鈴木茂兵衛商店の鈴木紘太氏製作ビデオにて、提灯全般の歴史、水府提灯・すずも提灯に至る過程・製造工程を紹介し、その後『すずも提灯』などに関して、鈴木社長とミック・イタヤさんにライブで対談をして頂きます。エンターテイメントは、世界的なマジシャンのメイガス氏にマジックを披露して頂きます。一般の方も視聴可能ですのでぜひお申込ください（日本時間4月23日午前8～9時、事前登録制、参加費無料）

すずも提灯 MICシリーズ『とり』

中島　津延さんの企画がクラフテリアートに取り組むきっかけでした。こうした企画の需要があるということは、ほかの伝統工芸でも同様のことが言えます。そこをプロデュースしていくことが関彰商事としての役目だと思っています。プロモーションだけでなく、販路についても関彰商事の強みである営業力と約2万社を数える多種多様な取引先に合った形で働きかけることで、伝統工芸が産業として未来に続いていく可能性を大きく広げて行くものと考えています。

現在、水府提灯と笠間焼のコラボレーションの実現に向けて進めています。これまで伝統文化を介したつながりを作る動きはあまり見られませんでした。団体、民間企業、個人、そして何より作り手をつなげ、広めていく動きはわれわれの強みになると考えています。そうしたつながりが茨城を皮切りに全国へ、さらには世界中に広げていくことが実現すべき目標です。

イタヤ　私も関彰商事のインスタレーションに関わり、ご覧になった方々の喜びの声を頂いたことで、美しいものに接することで人の気持ちが和らぐことを改めて実感しました。関彰商事がそうした芸術や文化の力を信じ、人のためにあろうとする姿は、会社の人材育成や仕事の在り方、人生の方向づけに大きく役立っていくのではないでしょうか。

企画展

日本から世界へおくる灯り
―地域で育まれてきた水府提灯の伝統と革新―

日本クラブ Webギャラリー

バーチャル・オープニング・レセプション 事前登録

企画制作・茨城新聞社営業局

関彰商事株式会社
つくば本社 / 〒305-0051 茨城県つくば市二の宮1-23-6
下館本社 / 〒308-8512 茨城県筑西市一本松1755-2
セキショウ
www.sekisho.co.jp